

アクアティクスセンターの整備を踏まえた東京辰巳国際水泳場のあり方について

1 東京辰巳国際水泳場の現況

- 所在地：江東区辰巳2-8-10 辰巳の森海浜公園内
- 開設：平成5年（2020大会時点で供用開始27年）
- 施設内容：メインプール50m×25m、サブプール50m×15m、飛込プール25m×25m
- 座席数：約3,600席（固定席）
- 東京辰巳国際水泳場の位置付け
都における水泳の中心的・象徴的施設としての役割を担う全都・広域的な専門施設として、水泳の普及振興を図り、都民の健康づくりや競技スポーツの発展に取り組む

2 アクアティクスセンターの整備概要

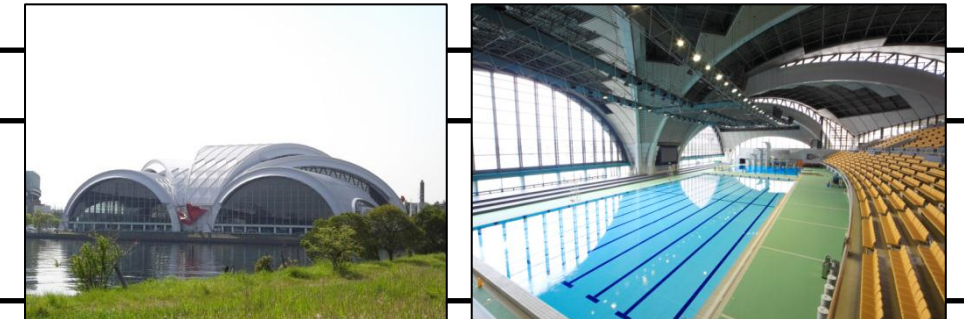
- 所在地：江東区辰巳2-1-35 辰巳の森海浜公園内
(東京辰巳国際水泳場との距離：約0.5km [徒歩約6分] (同公園内))
- 施設内容：メインプール50m×25m、サブプール50m×25m、飛込プール25m×25m
- 座席数：約5,000席（大会後、固定席）
- 立候補ファイルでの後利用コンセプト
 - ・ 国際大会含む水泳各種別の大会会場
 - ・ 住民も使える水泳場

3 アクアティクスセンターの後利用の基本的方向性

アクアティクスセンターの後利用には、従来の東京辰巳国際水泳場が果たしてきた機能を移転することが望ましい
(東京辰巳国際水泳場は、水泳競技専用の大規模スポーツ施設としての役割がなくなり、施設のあり方を検討)

4 東京辰巳国際水泳場のあり方・検討のポイント

施設の特徴：東京体育館並みの大空間（フロア面の面積及び高さ）、観客席の片側配置、ガラス張り壁面、水泳場に特化した設備 等
立地の特性：近隣に夢の島公園スポーツ施設のほか、有明アリーナ、東京ビッグサイトなどの大規模施設が立地



検討の視点

① 都民の健康づくり、スポーツ振興を目的とする水泳場としての利用可能性

- 最大5,000席の観客席、サブプール、飛込プールを備える総合水泳場としての施設規模の妥当性（維持管理費）
- アクアティクスセンターの都民利用と競合 など

② 水泳競技以外のスポーツ施設への転用（改修）可能性

- 体育館等としての利用可能性（施設整備・維持管理費、周辺競合施設、障害者が利用しやすい施設整備） など

③ スポーツ施設以外への用途への転用（改修）可能性

- レジャープール、多目的アリーナ、社会教育施設
- 庁舎、病院、学校は建設不可（海上公園条例） など

④ 施設を取り壊し、海上公園として再整備

- 海上公園としての機能 など